

射水市総合計画審議会 第1回安全安心部会 会議録

○日 時 令和4年2月10日（木） 午後7時～8時30分

○場 所 射水市役所大島分庁舎3階大会議室

○出席者

（委員）※敬称略

上田秀永、大坪清治、加治幸大、門田晋、木田和典、鈴木真由美、高市洋介（リモート参加）、釣谷隆行、大西宏治（オブザーバー）

※欠席委員

川原辰弥、中崎圭子

（当局）

現地参加

一松財務管理部長、桜川市民生活部長、小見福祉保健部長、杉本企画管理部次長、小川財務管理部次長、塩谷市民生活次長、京角市民生活部副参事（環境課長）、北福祉保健部次長、星野生活安全課長、山口地域福祉課長、渡邊社会福祉課長、轟介護保険課長、明保険年金課長、高岡保健センター所長、盛光政策推進課長

リモート参加

島多市民病院長、中野市民病院事務局長、糸岡市民病院事務局次長（経営管理課長）、下村医事課長、木田消防長、竹内消防本部次長、土居総務課長、大隈防災課長

1 開会

2 部会長あいさつ

3 議事

（1）各部会の所管事項及び日程・協議事項について

（2）政策ごとの課題の整理と主要施策（案）の検討

政策推進課長	※資料1・2に基づき説明
部会長	皆さんには2つの観点を中心に意見を頂戴したい。1点目は、基本方針の構成や考え方について。たたき台では4部構成になっているが、基本方針につながる政策も含め、この構成が適切かどうか、他の構成の方が良いのではないかなど、自由に意見をいただきたい。2点目は、政策ごとに課題を踏まえた施策が記載されているかどうか。抜け落ちているような観点や施策はないか、ということについて発言をお願いしたい。また、それ以外でも感じたことや意見があれば自由に発言してかまわない。
委員A	第3次総合計画基本構想たたき台について、基本方針と施策がきれいに仕上がっているが、市民の目から見て、どのように物事を進めていくか掴みづらい。行政サイドから見てスムーズにできあがっているような気がする。構成自体を市民の立場、目から見てどうすればいいのか考えてはどうか。それと委員には各専門分野の方々があり、各委員の専門的知見が加わるといい。福祉・環境・防災は同じ部に記載されているが、関連性が薄く気になる。
部会長	例えば、たたき台の第4部などは協働と共創ということで市民主体を求めている。市民の方々が分かりやすく、自分がどう動けば射水市のためになるのか、とい

	うことがイメージしやすい基本構想であれば、全員で射水を盛り上げていく感じになると思う。
政策推進課長	あくまでもたたき台として、現計画を念頭に分類している。特に第2部については、福祉・環境・防災といった関連性が少し薄い分野で取りまとめたのではないかと、事務局としても悩んでいた部分がある。市民の方への見せ方の話だと思うが、構成の代案を事務局でも検討してみたい。政策につながる「施策」の部分はどのような構成になっても変わらないので、その部分についてこの場で議論していただきたい。代案については早ければ次回の部会で比較という形で示したい。
部会長	施策が基本構想とどうつながっていくか、うまくみえるようなものになればいいのかなと個人的には考えている。基本構想の枠組みの話をしているが、それにこだわらず施策に関する意見があれば出していただきたい。
委員B	コロナ禍で子どもたちもストレスをためている。カウンセリングをしていく中で、子どもたちの心のエネルギーを高めてもらう、笑顔を取り戻してもらう、そのために必要なことは、安心、安全、安定である。安心、安全が継続していくと安定になる。頭文字のAを取って「3Aの法則」というのがカウンセリングにあるが、この3つを整えてあげると子ども達が笑顔を取り戻し、心のエネルギーが高まる。 現計画の目指すべき将来像に「あふれる笑顔」がある。安心、安全、安定が確立されていくと、そこに笑顔が出てくる。その中には健康や子育て、消防などいろいろなものが入ってくる。「関連分野の例示」として示されている事項を満たしていくこと自体が射水市の心のエネルギーの再生につながると思う。
委員C	所管にあるSDGsについて確認したい。第2次計画のときから、いろいろな活動そのものがSDGsという捉え方になっている。第3次ではそれを一層強く推進するようなものとなっているが、具体的にSDGsをどのように推進していくのか。例えば、目標の関わりを増やすのか、具体的な数字を設定するのか。射水市としてどのような特色を持って進めるのか、考え方を聞きたい。
政策推進課長	SDGsの推進については、重点共通プロジェクトに掲げているのはもちろんだが、細かい施策まで落とし込むか、別枠の重点施策として取り上げるか悩んでいる。逆に委員の意見を聞かせていただきたい。
委員C	SDGsは世界的な行動目標であるが、具体的なものはあまりない。各県、市町村もこれから取り入れていくと思うが、これを射水市の特徴として、具体的にいろいろな形でのSDGsを強く発信していてもいいと思っている。今は学校教育でも学んでいるため、より若い人のアイディア、思いを表すのもいいと考えている。
委員B	関連分野の中でSDGsでないものはどれか。地球規模で考えていくことは大事だが、行動は地道に、目の前にあることをやっていこうという考え方で、頭のてっぺんに地球規模で考えるべきものがあり、それを実際に足元で行動するにはどうしたらいいのかを考える。SDGsが別のところにあるのではなく、私たちは毎日やっているという話から入った方が、理解が深まるような気がする。
委員D	SDGsにこだわりすぎると抽象的になってしまうので、それを踏まえて具体的に射水市としてどう行動するのか考えたい。射水市は南北に長い市であり、里海、里山がある自然に恵まれた地域である。これをどうつなげ、射水市全体の交流をどうしていくのか、コミュニティバスは市民にとって有効に使用されているかなど、安全安心、有効に移動できる交通手段について議論していきたい。
副部会長	少子高齢化が進み、働き手が減少する中で、どのように財源を確保していくのかを詰めていく必要があるのではないかと。例えば、地域共生社会の実現を目指して事業展開する場合、現実的に財源が必要である。福祉政策を推進していくためにも財源の見通しを持っていないと先行きが綻んでしまう。ただ、お金がなくても「顔が見える関係づくり」はできる。小さなコミュニティの中で、そういうまちづくりを実践していくことが大事である。

	2040 年問題もあり、社会保障制度は崩壊していくということが指摘されている。そうした中、向こう 10 年間でどのようなことをしていかなければいけないのか、財源も含めて考えていく必要がある。そのために住民参加の方法も考える必要があると思う。
財務管理部長	基本構想を考える段階では、財源は考えずに射水市がどのようなまちを目指すかを考えていただきたい。実施計画を策定する際には財政見通しを作成し、それを踏まえて策定する。
副部会長	介護、医療の専門職員をどのように養成していくか、今から意図的に整備していかないといけない。
委員 E	行政だけでは限界があることを感じている。一人ひとりの市民が施策の中でどのような関わりが持てるのかをもう少し深く話をして計画の中に反映できるといい。
部会長	市民病院からリモートで参加してもらっているが、新型コロナウイルス感染症が診療に与えている影響について伺いたい。
市民病院長	感染症のピークアウトが見えない状況にあり、市民病院では感染対策の徹底、三密回避等に取り組みながら、感染症対応と通常営業を同時に行っている状況である。職員にもストレスが溜まっており、これは医療災害ともいえる状況だと捉えている。
部会長	リモートで参加している消防本部に伺う。新型コロナウイルス感染症が救急体制に与える影響はどうか。
消防長	なるべく通常に戻したいが、感染症の影響で現場滞在時間が延びているのが現状である。
委員 A	射水市の公共交通について、コミュニティバスが現在 17 路線ある。地方都市でこれだけ抱えている都市はない。「無駄に多い」と言われたこともあるが、路線を維持できている射水市は素晴らしいと思っている。隣の市は乗らないで減っていった。17 路線が多いのか少ないのか分からないが、会議でももう少し揉んで将来像を皆さんで話し合っ決めていくのも大事だと思う。また、タクシーは市内に 3 社あるが、高齢化しており人材が減少している。これに取って代わるものを考えていかなければいけない。
委員 D	団塊の世代が、今後、免許返納するようになり、ますます公共交通がクローズアップされる。買い物難民も出てくる。コミュニティバスとデマンドタクシーをうまく組み合わせて、必要な時には惜しげもなく税金を使ってほしい。我々が幸せな生活を送るためには公共交通が必要である。
委員 C	ゼロカーボンシティが記載されているが、再生可能エネルギーが注目されている。具体的な施策は県のビジョンと合わせた形で進めていくのがいいと考えている。具体的には、再生可能エネルギーを作っていくのではなく、温室効果ガスをどのように削減していくかをまず策定すべきと言われている。再生可能エネルギーはコストが高いため、作ったエネルギーをどのように使っていくかを考えていくことも重要である。これを農林水産、産業、教育の中で取り入れていくことがスタンダードな社会になっていく。市内には県の施設も多数あり、いろいろな形で新たな方向性を出しているの、そういったことも併せて計画の中に具体的に入れていくことが射水市の特徴になると思う。また、企業版のふるさと納税も盛んに行われており、外貨を獲得することも必要だと考えている。
委員 E	児童福祉について射水市の住環境は素晴らしいが、医療・福祉の面で足りない部分があり、例えば、支援が必要な児童の相談が市内で出来ず、富山市や高岡市に頼らざるを得ない現状がある。誰一人取り残さない社会の実現に向けて、こういった立場の人でも受け入れ、心配せずに暮らせるための施策を盛り込んでほしい。

部会長	関係人口を増やすとなると、いろいろな人がやってくることになる。もともと住んでいた人とどのようにコミュニケーションをとり、互いを理解し合い、安全安心に暮らしていくかが重要だと考えている。射水市は多文化共生を掲げているが、外国人から見た住みやすさ、働きやすさという観点の施策をいれてほしい。例えば、防災では、英語版のハザードマップがあるといいと思う。DXなども使いながら、みんなが幸せになれるまちづくりを目指せるといいと思う。
副部会長	県知事が言っている「ウェルビーイング」、肉体的にも精神的にも健康な社会づくりの追求のために、オンライン健康相談が非常に大事だと思う。市民目線で対応していくために、市民病院と市医師会が連携した体制をどのようにつくっていくかが大きなポイントとなる。 何かあったときに、ぜったい大丈夫だというメッセージを伝え続けていくという部分において、射水市の医療体制でもやもやる部分がある。例えば、健康診断の際などにオンラインの仕組みを使って、安心できるようなメッセージを送り続けることが大事である。オンラインを使っていつでもどこでも市民病院など相談窓口とつながることができれば移送問題への対応にもつながる。
部会長	本日発言のあった意見等で、基本方針に関する部分については、次回の部会で提出予定の基本構想素案に反映させることとする。また、政策や施策に関する意見は、基本計画の骨子案に反映させ、協議することとしてよろしいか。また、他の部会の所管事項に関する意見については、本部会の委員からの意見として各担当部会長に報告してよろしいか。 (異議なし)
部会長	それでは、そのようにさせていただく。なお、本日いただいた意見の次回資料への反映については、部会長・副部会長に一任でよろしいか。 (異議なし)
部会長	今日発言できなかったことや、後日気づいた点など、意見がある場合、机上の様式等を利用し、随時、事務局へお送りいただきたい。

4 その他

部会長	本日の会議での指摘や要請で、次回の会議までに準備するもの、回答が必要なものについて、事務局から確認をお願いしたい
政策推進課長	現在の構成を市民目線にという意見については、別の案として事務局で検討する。その回答を次回の部会で示す。
部会長	最後に、今後の開催日程等について、事務局から説明をお願いしたい。
事務局	第2回部会は4月の開催を予定している。基本構想素案、基本計画骨子案について協議いただければと考えている。また、第3回総合計画審議会は5月に予定しており、基本構想素案を決定できればと考えている。会議日程は調整の上、改めて案内する。

5 閉会

以上